いなほ

稲積神社社報
第60号

令和６年 新年号

謹賀新年

宮司　根津泰昇
禰宜　根津佳明
権禰宜　根津司
権禰宜　土肥東宮
権禰宜　篠原康正
権禰宜　渡辺僚
権禰宜　保田俊
権禰宜　河野泰山
権禰宜　伊藤裕之
権禰宜　志村奈実
責任役員　小尾武
責任役員　内田清
総代　井上重良
総代　新藤淳
総代　五味隆彦
総代　高山政宏
総代　西野直樹
崇敬会名誉会長　金丸康信
崇敬会会長
正の木祭実行委員長　藤本浩

外郭団体

甲府伊勢講講元　小野忠
崇敬青年会会長　五味隆彦
稲積睦会長　高山政宏
敬神婦人会会長　丹澤起恵子
崇敬会友の会会長　大森丘
いなほ会会長　河野敏久
和会会長　渡辺進
いなづみ会会長　須田雄明
崇敬会常若会会長　花輪武彦

新年を迎え

責任役員
内田　清

皆様、新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、今年一年平穏無事な日々が送れますよう神様にお祈りしたいと思います。

年齢を重ねてくると健康のこととか老後のこととか心配になることは尽きることがありません。しかし、色々と思い悩んでも詮ないことであり、体を動かし、やりたいことをやり、言いたいことを言い、食べたい物を食べ、自由奔放にストレスのない生活をするのが最上と思います。悟りを開いたというよりむしろ諦観に近い心境になったのかも知れませんが、それで良しとしたいと思います。

さて、今年は「甲辰年」ということですが、西暦や昭和、平成、令和に慣れた身にとっては、甲辰年とは何ぞやということになります。調べてみないことには正確なことが分かりませんのでパソコンで調べて見ることにしました（分からないことは、パソコンで簡単に調べられるので、随分と便利な世の中になったものです）。

以下は、ネットにあったことですが、要約しますと次のようになります。

①「甲辰」は、きのえたつ、こうぼくのたつ、こうしんと読みます。

②甲辰は干支（えと）の組み合わせの四十一番目に当たります。

③干支は、十干と十二支から成っており、十干は、甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸の十で、十二支は、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥の十二です。十干と十二支を一番から順に割り振って行くと四十一番目に十干の甲と十二支の辰が重なります。重なった年が「甲辰」の年ということになります。

④干支は、紀元前一六〇〇年頃には中国の殷で使われていたといわれ、三～四世紀頃に日本に伝わり使用されるようになったと言われています。

甲子園球場は、甲子の年（大正十三年）に球場が完成したことからその名前が付けられたことは有名です。

また、還暦は、数え年で六十一歳のことですが、干支が六〇年で一巡することから還暦と言われ、還暦イコール六〇歳ということも定着しています。

「甲辰年」は六〇年に一度しか巡って来ませんから、今後六〇年毎の年がどのような年になるのか気になります。また、過去はどのような年だったのかも気になりましたので調べて見ました。六〇年前の一九六四年は、東京オリンピックが開催された年でした。その前の一九〇四年は、日露戦争の開戦の年となっています。

さらに遡って見ると我々が学んだ日本史の世界が広がって来ます。節目の年には大きな出来事はなくてもその前後には、歴史上の重大な事件が起こっています。六〇年ずつに区切って過去に遡って歴史を眺めるのも一興で、子細に眺めて見ると我々の祖先が辿って来た道が想像出来ます。

令和六年甲辰年は、我々の長い歴史の中の一コマになります。これからの歴史の中で後世の人が振返って今年を見た時、後世の人がどのような時代だったと評価するのか気になります。

二〇二四年の甲辰年は見るべきものは何もなかった、金儲けに明け暮れ、地球環境を破壊し、世界各地での争いが絶えなかった地球史上最悪の年であったと言われないように是非ともしたいものです。冒頭神様にお祈りしたいと思いますと書きましたが、むしろ神様に自分の決意を報告する、神様と約束をすると言い換えた方が良いのかも知れません。他力本願では何も手に入らないと思います。今年は幸せで平穏な日々が送れるよう全員で決意を新たに主体的に行動する年でありたいと思っています。

神社本庁規程表彰の栄に浴して

権禰宜
土肥東宮

緑が目に染みる程の庭園を有する明治記念館に到着したのは、令和五年五月二十四日正午頃でした。当日は、山梨県より小佐野庁長始め、神社庁・甲府支部役員の皆様にご出席いただき、受賞者の記念撮影に始まり、池田厚子総裁の式辞を鷹司尚武統理が代読され、結びに受賞者代表二荒山神社阿部憲宮司が謝辞を述べました。

私が神職の資格を取得し三十五年は長い年月です。が、その間男性神職の皆様、女性神職の諸先輩方の後ろをただウロウロと迷子にならぬようにと過ごしてきた三十五年間です。ですから、この度の表彰は、私には身に余る光栄と恐縮致しております。

式典終了後、東郷神社に於いて正式参拝後祝賀会を開催いただきました。

若い頃は、この私が「みこともち」としての役割が果たせるのだろうか、と自問自答していた時期がありました。それも年月と明き清き誠をもっての積み重ねと継続により現在に至っております。これまで稲積神社の大神様のお導きと崇敬者の皆様に成長させていただいた事が、今の神職のこの身があるのだと感謝の念に堪えません。

まだまだ足りない自分がおりますが、女性神職としてたおやかに、参拝者のお気持ちを察し、思いやりと初心と感謝を忘れず、真心込めて神明奉仕に尽力してまいりたいと存じます。どうぞ今後ともご指導くださいますようお願いいたします。ありがとうございました。

明治記念館に於ての表彰授与式にて栄に浴する

辰年生　所感

崇敬会会員
衆議院議員
中谷　真一

私は昭和五十一年生まれで、今年は四十八歳となり年男になります。二〇二四年に迎える甲辰は十干十二支の四十一番目の年にあたります。甲と辰が合わさる二〇二四年は「甲」がもつ第一位という意味であり優勢であること、まっすぐ堂々とそそり立つ大木を表しています。「辰」は十二支の中で唯一架空の生き物、龍を意味します。水や海の神として祀られてきた龍は、竜巻や雷など自然現象を起こす大自然の躍動を象徴するものです。「龍が現れるとめでたいことが起こる」と伝えられてきました。この二つの組み合わせである「甲辰」には「成功という芽が成長していき、姿を整えていく」といった縁起の良さがあるようです。

私は政治に携わっていますが、古来からまつりごとはタイミングが重要です。国会議員となり、これまで努力を積み重ねてきた事業を成就させるような年にしたいと思います。例えば、新山梨環状道路北部区間です。桜井ＩＣから宇津谷ＩＣまでがまだ事業化されていない現状を是非打破したいと思います。さらには先日、細部ルートが示された中部横断道北部区間（長坂～八千穂）も同様に道筋をつける年にすべく、県民の皆様とともに一気集中して働きかけを行っていきたいと思います。皆様にもご理解ご支援賜りますよう宜しくお願い致します。

また、経済においても潮目が変わりチャンスを迎えています。我が国の経済は、長く続いたデフレフェーズからインフレフェーズに変化してきています。緩やかなインフレが経済には最も良い影響を与えます。緩やかなインフレという環境を作るには、価格転嫁と持続的な賃上げを達成する必要があります。このため最大限の政治努力をし、成し遂げ国民生活を豊かにする、そのような年にしたいと思います。

ちなみに私が衆議院選挙で初当選した平成二十四年も辰年でした。私にとって非常に縁起の良いこの年に初心に帰り国民県民の期待に最大限応える。そのような年にしたいと思います。

引き続き努力精進致しますので、皆様のご指導ご鞭撻を心からお願いします。

還暦を迎えて思うこと

崇敬青年会会員
望月　瑠華

今年二〇二四年私は還暦を迎えます。振り返ってみるとあっという間の六十年だったと感じています。私は東京生まれの東京育ちで、同じく東京出身在住の夫と大学卒業後すぐに結婚しました。三年後の二十六歳の時に夫の仕事の関係で山梨へ移住してきました。夫の祖母と同居し、二人の子供の子育てをしてきましたが土地勘も知り合いもいない私は田舎暮らしに馴染めず、祖母もとても厳しい人だったので試練の日々を過ごしていました。十三年前に祖母を見送り子供達も成人した今では、辛かった毎日も環境も未熟な私にとっては必要で、そのお陰で今の私がいると感謝しています。

そして十五年前から会社経営に携わることになり、ロータリークラブに入会したことから稲積神社とのご縁を頂き五年前に崇敬青年会に入会をいたしました。伊勢神宮参拝や恵方参り、そして様々な神事に立ち合わせて頂きご神徳を頂いていることは感謝以外の何ものでもありません。神社を身近に感じるようになり、健康や頂いた色々なご縁に感謝しより良い道に進む為に力を頂くところが神社だと思っています。初めて伊勢講に参加した時、根津宮司様が「こうありたいという事を心に持ち願うことが大切で、願いをかける事は自分に力を与えること、これが信仰である」と仰った事に感銘を受けました。今も強く心に残っています。私は「祈り」は心を安らかにし大きな力を生み出すもの、そして「祈り」は「感謝」だと思っています。

十干十二支が一巡して迎えるのが還暦、生まれ変わりの時とされています。今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」で、「甲」は十干の一番最初にあたるものであり、生命や物事の始まりを意味します。「辰」は振（ふるう）を表し、自然万物が振動し草木も伸長し形が整い活力が旺盛になった状態を表すといいます。二〇二四年は、新たに生まれ変わり芽吹き活力が漲り、良い形になり成長する年と言えます。還暦を迎え思うことは、六十年大病もせず健康に過ごせてきたこと、商売を続けていられること、家族や仲間に恵まれ助けられていること、生かされていることに心から感謝しこれからの人生は今までのご恩返しとしてより一層精進し、地域社会や周りの方々、世の中のお役に立てる生き方をしていきたいと強く思っています。二〇二四年は生まれ変わった気持ちで新たなスタートを切り、進化を遂げる一年にするべく頑張っていきますので皆様これからもどうぞよろしくお願い致します。

第五十八回稲積神社甲府伊勢講 神宮新穀感謝祭に参加して

崇敬会会員
田　中　三貴子

令和五年十月二十二日より一泊二日の日程で「伊勢神宮新穀感謝祭と別宮倭姫宮参拝の旅」が開催されました。私にとっては初めての伊勢講への参加です。「一生に一度は行きたい伊勢神宮」と言われている旅です。とても楽しみにこの日を迎えました。

伊勢までのバスでの長い道のりを経て無事外宮に到着。まずは豊受大神宮での正式参拝。凛とした空気に背筋が伸び、静かでとても穏やかな気持ちになりました。ここに来る事ができた事、また日々の幸せに自然と感謝の気持ちが湧いてきました。参拝の後は御神楽奉納です。素晴らしい舞と澄んだ音色の演奏。衣装も装飾が鮮やかでどれも美しく、すっかり魅了されてしまいました。

内宮宇治橋前

次は五十鈴川の清流に心を洗われながら宇治橋を渡って天照大御神を祀っている内宮での正式参拝。こちらでも、穏やかな気持ちにとても不思議な感覚です。

二日目は倭姫宮参拝です。私はこの旅に参加するまで、祭神である倭姫命の事をよく知りませんでした。倭姫命は日本武尊の伯母にあたり、父である垂仁天皇の命により天照大御神の御杖代となって諸国を巡り、そして伊勢の地に皇大神宮を創設された方と伝えられています。神宮の祭祀と経営の基盤を確立されるなど、偉大な功績を称え、内宮の別宮倭姫宮が大正十二年に創建されました。今年は鎮座から百周年にあたり、徴古館では百周年記念展が開催されていました。倭姫命の歴史や伝承と神宮の歴史や文化が展示されていて、中でも社殿の復元展示や御神宝類は圧巻で見入ってしまいました。建物は赤坂離宮（迎賓館）を手掛けた片山東熊の設計という事で、ルネッサンス様式の外観は優美で倉田山の自然と調和した素敵な建物でした。

今回の旅では様々な装束が実際に着用されている場面を目にし、装束を作っている者として大きく刺激を受けました。私が作る装束もこの様に輝く事ができるよう、今まで以上に製作に励もうと思いました。最後にこの様な貴重な旅に参加させて戴いた事を心より感謝申し上げます。

御田植祭に参加して

山梨大学教育学部附属小学校　生徒会長
山主　とわ

私は、今年も稲積神社のお田植え祭に参加しました。お田植え祭は、毎年五月に行われ、地域の方々や子どもたちが一緒に田植えをするイベントです。私は小さいころから両親に連れられて参加していました。

お田植え祭では、神社の一角にある神田にお田植えをします。初めに、お田植え祭の祈願をしました。晴れた空の下、静かな雰囲気とみんなの祈っている姿は、祈りが天まで届くようでした。

その後、田植えを行いました。裸足になり田んぼに入ると、足はひやっと、ヌルっとしました。最初はその感触に驚きましたが、だんだん慣れてきて気持ちよくなっていきました。子ども達が苗を手に持ち、横一列に並び、大人に教えてもらいながら、苗を植えていきました。最初は、うまく植えることができず、苗が倒れたり、苗の量が少なかったりしましたが、大人の優しい声かけで、段々とコツを掴み、無事に田植えをすることができました。きれいに苗が並んだ様子は清々しく、達成感・充実感がありました。

家に帰り、改めて、お田植え祭について調べてみたところ、「豊作を祈念する神事」だと分かりました。私は、毎日当たり前のようにご飯を食べており、これまでお米を作る大変さを考えることはありませんでした。昔の人は、お米を大切な食料として、豊作を祈りながらお米を育てていたのだと思いました。

昔から続くこのお祭りが、多くの人々にとって大切な神事であり、たくさんの人の思いがつまっていることを知りました。お田植え祭を通し、私は、あらためて自分の生活を振り返るきっかけとなり、お米を作ることの大変さやお米の大切さを学ぶことができました。そして、昔から続いている伝統行事について考えることができました。

私と一緒に参加した両親は、いつも多くの人たちと仲良く話をしている姿があります。お田植え祭は、豊作を願うばかりではなく、人と人を繋げる行事であるとも感じました。人と人とが繋がることは、とても大切なことです。年に一度のこの一日に、多くの方々と交流する機会にも恵まれ、とても良い経験をすることができました。

私は、来年も、お田植え祭に参加して、お米の大切さや食べ物の大切さを感じながら生活できるようにしていきたいと思います。

崇敬者の善男善女によるお田植

外郭団体便り

全国敬神婦人会 宮崎大会に参加して

敬神婦人会副会長
河村由里

九月十一日から二泊三日で山梨県内の敬神婦人会メンバー他十四名で参加いたしました。稲積神社からは土肥権禰宜と私の二人での参加です。

大分空港に到着後、現地のベテランガイドさんの楽しいおしゃべりと快適なバス移動で春日神社へ。自由参拝でしたが参集殿など立派な建物をご案内いただきました。

大会会場

その後、海地獄、かまど地獄の散策で別府温泉の歴史などを垣間見てから旅館で温泉をたっぷりと堪能いたしました。

翌十二日は第七十三回全国敬神婦人会宮崎大会に参加するため、宮崎県のシーガイアコンベンションセンターへ移動しました。道中、かつての新婚旅行の観光名所など眺めながらガイドさんのおしゃべりに楽しい時間を過ごしました。

とても広い会場に着くと、案内の係の方々が手際よく誘導されていて、また宮崎県産のフルーツなどのお土産コーナーが準備されていて、良い品を買うことができました。

記念清興は迫力ある『宮崎神宮獅子舞』を、また神社本庁総裁池田厚子様のお言葉など著名な来賓の方々のご挨拶、記念表彰、また議事、次期大会地が発表されスムーズに進行しました。二部では歌手の米良美一さんのトークを交えたライブを鑑賞、童謡や懐かしい歌をアカペラで聴けて、最後の『ヨイトマケの唄』は感動して涙するほどでした。

鵜戸神宮本殿前にて執筆者と権禰宜

三日目は鵜戸神宮、青島神社の参拝で、今回の楽しみの一つでした。鵜戸神宮は海に面した岩の中の本殿、おちちいわを見て、運玉を投げて見事成功してきっと願いも叶うことでしょう（笑）青島神社の日向神話の説明は省きますが、それは素晴らしく一度訪れることをお勧めします。

今回の全国敬神婦人会に参加して、その他の美味しいお料理、神話の世界、歴史に少し触れ感じることができ良い経験となりました。ありがとうございました。

和会の当番による四十九回ゴルフコンペ

優勝者　愛宕神社宮司
小山利行

六月二十五日にグリーンバレーで行われた稲積神社崇敬会ゴルフコンペで優勝してしまいました。新ペリア制限無とのルールでしたが、こんな結果が待っているとは思わずゴルフを楽しむのでは無く道場に修行に来た様でした。野球の言葉の中に勝は実力五割、運三割、調子一割とか勝に不思議あり、負に不思議無しともあります。今回は運九割だったと思います。

特に一組目スタートで一番で、ギャラリーが多く力み過ぎ連続チョロ。同組の常若会小林隆広さんの連続バーディに正直とんでも無いところに来たなと思いました。又総代内田先生の健康維持の為の歩きゴルフの姿勢も参考になりました。

三十オーバーで終了し、ブービーかソーカーかなと思って懇親会に参加したところ賞品のお米を頂く事となりました。ゴルフを始めて七年目ですので経験が浅くまぐれで優勝してしまいましたが、同じゴルフ仲間として楽しむ事が大切だなと思いました。今後も神社と崇敬会の発展と皆様のスコアの向上を祈りまして筆を置く事といたします。ありがとうございました。

第49回参加者一同

令和六年 運勢

甲辰（きのえたつ）・三碧木星

宮司　根津　泰昇

甲辰は震方位であり、ふるい起る意。竜巻が猛威をふり起すのは、この象の意である故今年は変化の多い年なので世間の動きを見極めること肝要。

三碧木星は、短気、軽率の行動に注意が必要なので、物事に真剣に取組むこと肝要であり、それを実践することにより、発展進展の新展開が生じる年です。気分も上昇して活動出来ることになります。

☆**一白水星（盛運期　注意運）**

盛運期ですが**暗剣殺を受けるので星除祈願をお受け下さい。**向上発展の年であり気分も上昇気流に乗り、活動的になり、決断や実行がしやすくなりますが、暗剣殺を受けるべての言動に細心の注意力が必要になります。病気にも要注意です。

○昭和二十九年　七十歳

運勢も満願になる年です。人生を振返り、良き事は継続し、悪しき事を修正して穏やかな人間造りを始めましょう。今年は自我を通し過ぎると前途難題の象もありますので注意。

○昭和三十八年　六十一歳

男性は後厄です。厄除祈願をお受け下さい。

今年は暗剣殺の作用を受け易い時ですので自身の管理をしっかりする事が肝要です。信用を失ったり、不名誉を受ける象があるので、充分な注意が必要。

○昭和四十七年生　五十一歳

今年は生活環境にも恵まれ、経済的な面でも順調に進む象である。反面凶作用を受ける年なので、慎重な言動に徹しなければ下落する面もあります。しかしながら暗剣殺又後厄により、良き道が開かれるでしょう。病難に注意。

○昭和五十六年生　四十三歳

順調に歩む年です。諸事にも経済的にも恵まれる年です。しかし凶作用を受ける年なので順調に進んでいても周りをしっかり見渡し、慎重に歩むことと肝要。

○平成二年生　三十四歳

経済的にも恵まれる年ですが、正道な道を歩まないと失敗の原因を作ります。故に警戒心を持ち、行きすぎな言動に注意すること。病災にも注意が必要です。

○平成十一年生　二十五歳

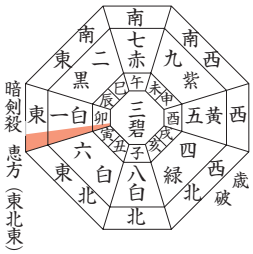
男性は後厄です。厄除祈願をお受け下さい。

令和六年方位吉凶図

次の星の人は「方災除」「生気興隆」「開運」のご祈願を受け、災難除の御神徳をお授かり下さい。

●凶方位に新築、増築、改築、開店、進出、遠方旅行、移転行為をする人
●歳破を受ける四緑木星の星の人
●衰退運の八白土星の星の人
●変動運の三碧木星の星の人
●暗剣殺を受ける一白水星の星の人

ラッキー色　碧色



方位除守

今年は上昇気流に乗りますので、精神的にも活発になり、目上の人から的の引き立てもあり暗剣殺又後厄の作用を受けるので男女問わず行き過ぎ、自我心を表面に出さぬこと。

◎吉方　東北　南

◎凶方　東　西　西北

◎諸事　見送り

☆**二黒土星（盛運期の盛運）**

努力の積み重ねることにより目標が成就出来るような良運である。しかしながら対人から好い話を持ち込まれることがあるが、慎重に吟味することが肝要。諸事に対しては決断する事柄を熟慮し確信をもって決断すること。

○昭和三十七年生　六十二歳

晩年の基礎作りに良い年であります。家族との語らいを深くし、聞く耳を養うことにより生活円満に導かれますが諸事を実行するには時期尚早ですので計画、立案止まりにしましょう。

星	誕生年	吉方位	凶方位
一白水星（注意運）	平成・二・十一・二十・二九年 昭和・二・十一・二十・二九年 大正・三八・四七・五六年	北東・南	東・西・西北
二黒土星（盛　運）	平成・一・十・十九・二八年 昭和・一・十・十九・二八・三七・四六・五五年 大正・四・五五年	東・南・南西・西北	北北・南・南西
三碧木星（注意運）	平成・九・十八・二七年 昭和・九・十八・二七・三六・四五・十四年 大正・六・十五年	南西	東・西・西北
四緑木星（注意運）	平成・八・十七・二六年 昭和・八・十七・二六・三五・四四・十三年 大正・五・四・十三年	南西	東・南・南西・西北
五黄土星（順調運）	平成・七・十六・二五年 昭和・七・十六・二五・三四・十三年 大正・三・二・六一年	北・東・南・南西	東・西・西北
六白金星（注意運）	平成・六・十五・二四年 昭和・六・十五・二四・三三・十二年 大正・三・四二・五一・六十年	北・東・南	北・東・南・南西・西北
七赤金星（順調運）	平成・五・十四・二三年 昭和・五・十四・二三・三二・十一年 大正・二・十年・五十・五九年	北・東・東南	北・東・南・西・西北
八白土星（衰退運）	平成・四・十三・二二・三一年 昭和・四・十三・二二・三一・九年 大正・一・九年・四十・四九・五八年	北・東・南・西・西北	北・東・南・西・西北
九紫火星（順調運）	平成・三・十二・二一・三十年 昭和・三・十二・二一・三十・八年 大正・八年・四八・五七年	北・東・南	北・東・南・南西・西・西北

○昭和四十六年生　五十三歳

諸事がスムーズに運ぶ良運ですので、世間の動きを早く察知しその波に乗ることにより繁栄発展の基となります。又信用を受け順調に進む年です。

○昭和五十五年生　四十四歳

努力を積み重ねてきた事柄は成就し、恵まれる年ですが、気持ちが緩むことにより物事がスムーズに運びませんので用心が必要です。

○昭和六十四年生　平成年生　三十五歳

女性は前厄です。厄除祈願をお受け下さい。盛運の幸運を得る年ですので精神も安定し、対人関係もスムーズに運び、目上からの引立もあり、厄も受けずに済むようになります。

○平成十年生　二十六歳

盛運の良い運期ですが、気を抜いてはいけない年です。回りの動きを察知し判断を間違えないように行動することです。強引に行動すると非難を受けます。

○平成十九年生　十七歳

女性は前厄です。厄除祈願をお受け下さい。初めての厄年を受けますが取り巻くご家族の愛情を受けて、通常の生活を営むことにより文芸、学問も上昇しますので神社参りをすると良いでしょう。

◎吉方　北　北東　南　南西

◎凶方　東　東南　西　西北

◎諸事　建築　改築　開店　吉

☆**三碧木星（平運期　注意運）**

本年は八方塞がりの年ですので特に注意を必要とする年です。勢い、元気、やる気は人一倍ある年ですが、このやる気を外に出すと災いを招きますので、全ての事柄、考え方は保守保全の姿勢に努めること肝要。

○昭和三十六年生　六十三歳

今年は晩年の為にも自己管理を確実に心、先を見据え行動することにより良運が得られますし、社会の信用も得ます。

○昭和四十五年生　五十四歳

自己管理が出来ず思うがままに進むと破滅し失敗を生じます。経済的にも安定しているように感じても終末は身にならない結末となります。

○昭和四十四年生　四十五歳

保守保全に徹することにより精神も安定し諸事がスムーズに進み、社会から信用も得、引立もあります。反面勢いを前面に出すと、不和事裁判事を起こしますので注意。

○昭和六十三年生　三十六歳

女性は本厄です。厄除祈願をお受け下さい。本年は保守保全に徹し、自己管理を怠らないように。強情を通すと非難を受け、不和事も生じます。又病難にも注意。

○平成九年生　二十七歳

諸事に保守保全の精神に徹すことにより、仕事運、社会運も順調に進むでしょう。神社参りすることは大切です。

○平成十八年生　十八歳

女性は本厄です。厄除祈願をお受け下さい。女性は特に自立しようとする心と変化を求める行動をとると家族との対立が生じ、物事がスムーズに進まず、目的が達成出来ませんので常に心穏やかに生活すること。

◎吉方　南西

◎凶方　東　西　西北

◎諸事　見送り

☆**四緑木星（平運期　注意運）**

歳破を受けるので星除祈願をお受け下さい。核からは抜けましたが今年は歳破の凶作用を受けるので何事もスムーズに進行しない象が見られますので、言動に注意し、社会的信用を保ちながら地道に一歩一歩を着実に歩む事が肝要です。

○昭和三十五年生　六十四歳

歳破の凶作用を受けているので警戒さ慎重さが必要です。怠ることにより破滅、失敗を生じますので、日々の生活に注意。

○昭和四十四年生　五十五歳

地道に歩むことにより、精神も安定し、人から信用を受け名誉、信用を得ます。反面歳破の凶作用を受けますので、分離、不和事を招くおそれがありますので自己管理が大切。

○昭和五十三年生　四十六歳

社会から非難を受け諸事順調に進みません。自己主張を表面に出すと

家庭に不和事が生じ苦労が増しますので用心が必要です。病難にも注意。
○昭和六十二年生　三十七歳
女性は後厄です。厄除祈願をお受け下さい。自己管理を徹底することにより自己向上、家庭、仕事、対人関係にも向上発展に繋がりますが、歳破を受けていますので日々の生活に注意も必要です。
○平成八年生　二十八歳
平静不動な精神に徹すること肝要。良運に縁が薄く、諸事がスムーズに進んでいるように感じても結果は災いを受けます。病災に注意。
○平成十七年生　十九歳
○昭和四十三年生　五十六歳
対人関係に出費が嵩み苦労が増す。関係になるが反面口論を繰返すこともあり順調に進まない点があるので和して同ぜずの精神が肝要。
○昭和五十二年生　四十七歳
諸事が順調に進み、基礎造りを進めることにより、向上発展の年なので日常生活が潤おえるように努力することです。
○昭和六十一年生　三十八歳
発展性のある年で対人関係も深みを増し、日常生活も平穏のように映るが、内心は苦労が多く経済的にも不安を生じる年なので、現状を見つめること肝要。
○平成七年生　二十九歳
日々地道に歩むことにより、精神も安定し諸事も順調に進み、目上の人からの引立もあり、信用も得、発展の年ですので自己向上に励んで下さい。
○平成十六年生　二十歳
家族や親族の生気を強く受けている時期であり、自己の運勢はまだ芽生えていませんが、自己主張が強い年なので目上の人の言葉を大切にし、自己向上に励むこと。
◎吉方　北東　東南　南　南西
◎凶方　東　西北
◎諸事　建築　改築　開店　吉
☆**六白金星（衰退期　注意運）**
衰退期一年目です。諸事は順調には進みませんので、歩んだ道程を振り返り、善かれ悪かれこの先の歩みを見出す事柄に専念する年です。経済的にも順調さに欠けますので熟慮すること。
○昭和三十三年生　六十六歳
晩年の青写真を築く年ですが、意見の交わりがなく身勝手な言動があるので全てに順調さを欠きますのでまず自分自身の言動に充分注意することです。病難にも注意です。
○昭和四十二年生　五十七歳
道程を検証し、将来の進むべき着地点を探し求められたならば、思考も聡明になり信望を得、名誉を受け、諸事発展する年です。
○昭和五十一年生　四十八歳
諸事は順調には進みません。神縁にも薄く不名誉受けたり常に関所がある感じです。本年は病災別離にも注意し神社参りをし平静不動な精神に徹すること。
○昭和六十年生　三十九歳
言動により築きあげてきた精神の財産、又財物を失う年なので自分自身の言動には充分注意が必要です。控えめな精神が必要です。
○平成六年生　三十歳
自己主張は控えないと友人、知人又社会的に離別することになり、修復に時間がかかるので、自分自身との問答が必要な年です。
○平成十五年生　二十一歳
身勝手な言動により誤解誹謗を受け失脚する場合があるので言動は控えめにすること。悩み事は両親に相談すること。
◎吉方　北　東南　南
◎凶方　北東　東　南西　西　西北
◎諸事　諸事により前半吉　後半見送り
☆**七赤金星（衰退期　順調運）**
長いトンネルと短いトンネルの間で青空が見える時期ですので非常に不安定な時です。良いかと思えば悪くなり、悪いかと思えば一転して好転になる年なので好い事柄であれば争いや不名誉を受けるような危険性のある年です。
○昭和三十二年生　六十七歳
新たな行動には不向きな年ですが、晩年の基礎作りには良い年です。過去の道程を見極め、これから計画を立て事を探す日々の生活に役立つ事を探す日々の穏やかに生活することが大事です。
○昭和四十一年生　五十八歳
諸事は思うように進みません。焦れば焦る程逆方向に進み良縁に程遠くなりがちです。良いと思い、行動をとっても終わりは災いを生じますので今年は平静不動の精神に徹することです。
○昭和五十年生　四十九歳
精神が高慢になるような年です。故に自分の所有するものを失うようなことが生じます。又経済的にも良さそうに感じても終わりは失うことがありますので自己管理をしっかりすること。
○昭和五十九年生　四十歳
男性は前厄です。厄除祈願をお受け下さい。今年は不安定な年なので自我心を表面に出さないようにすること。自己主張を表面に出すと人との分離を生じます。又失職、解雇につながりますので注意する年です。
○平成五年生　三十一歳
女性は前厄です。厄除祈願をお受け下さい。自己主張を慎み、人の話に耳を傾けないと誤解誹謗、反対妨害を受けることになりますので日々注意すること肝要な年です。
○平成十四年生　二十二歳
正道な日々の生活を営むなら諸事も順調に進み良き年となります。しかしながらあまりにも積極的言動をとると順調さを欠きますので力量を考えての行動をとること。
◎吉方　北東　東南
◎凶方　北　東　南西　西
◎諸事　一年の間に解決出来る事柄ならば吉
☆**八白土星（衰退期　衰退運）**
運勢では大底に沈む時期でありますので、最善の注意が必要な時です。諸事全て順調に進まず焦って手を出すと、より一層の凶作用を受けるような年なので時勢に流されるままに生活すること肝要。
○昭和三十一年生　六十八歳
運勢満願も間近でありますが周囲に出配りする精神が大切です。自己主張や強引さを表面に出すと積み重ねてきた事柄が崩れ落ちますので充分な注意が必要です。
○昭和四十年生　五十九歳
男性は前厄です。厄除祈願をお受け下さい。最後の前厄を受けるので精神的にも不安定な年となります。自分が進もうと思っても進めず、事柄が空回りする年で、順調に進んでいると思っても終わりは結ばれず苦の種を蒔く事多し。
○昭和四十九年生　五十歳
新たな事柄に手を出したり、計画立案して表立った行動をとると、その事柄が順調に進まないことは勿論ですが、その事柄で分離をみたり朋友知己との別れも生ずるので注意。
○昭和五十八年生　四十一歳
男性は本厄です。厄除祈願をお受け下さい。自己主張を前面に出すと社会から誤解誹謗を受け名誉な結果を生み出しますので私生活に充分な注意が必要です。
○平成四年生　三十二歳
女性は本厄です。厄除祈願をお受け下さい。女性は厄除祈願を受け穏やかな精神で過ごすこと。男性は諸事を注意深く検証して、一歩一歩むならば諸事も少しながら順調に進むでしょう。結婚運は吉です。
○平成十三年生　二十三歳
男性は前厄です。厄除祈願をお受け下さい。流れに逆らったり、順調に進むような行動をとらないと良縁に恵まれる年でもあります。
◎吉方　北東　東南　南西
◎凶方　北　東　南　西　西北
◎諸事　見送り
☆**九紫火星（盛運期　順調運）**
衰退期も抜け盛運期に入ります。衰退運の運勢を前半は受けますが非常にまずいので諸事が長引き時が必要です。辛抱強く待つことにより温順平穏、堅実安泰を得ます。
○昭和三十年生　六十九歳
運勢も満願になります。自己中心的な考え方で行動をとると今まで積み上げてきた事柄が崩れたり、人との分離が生じますので、穏やかな言動で日々を生活することが肝要です。
○昭和三十九年生　六十歳
男性は本厄です。厄除祈願をお受け下さい。前半に注意心を持つこと肝要。後半は強力に前進してゆくと人との分離を生じて土台が崩れがちになりますので注意。
○昭和四十八年生　五十一歳
前半に自己中心的又思い切った言動を取ると誤解誹謗を受けることになり諸事が順調に進みません。又家庭運も下向きになります。病災もあります。
○昭和五十七年生　四十二歳
男性は後厄です。厄除祈願をお受け下さい。前半は不動の精神に徹すること、周囲の心により、衣食住の恩を受けられる年になります。
○平成三年生　三十三歳
女性は後厄です。厄除祈願をお受け下さい。昨年一年の経過を検証して、辛抱強く関わることにより好運期を招くことになります。
○平成十二年生　二十四歳
男性は本厄です。厄除祈願をお受け下さい。衰退期を抜けたので猪突猛進的行動に出がちです。故に良き方向に進んでいる感じを受けますが、終局は何も残らず残骸のみが残ることになりますので周囲の動きを注視すること。
◎吉方　北東　東南　南西　西北
◎凶方　前半注意　後半建築　改築　開店　吉

恒例祭（神社で行われる恒例のお祭り）の報告

夏越大祓

六月三十日、今年半年間の罪穢れを祓へ清める夏越大祓式が十六時より崇敬者九十人程が参集し斎行された。人は生かされている証として、残食したり、一言言葉が足りず誤解を生じることがあります。この様な事の反省をするのも大祓式です。

茅の輪くぐり

後半の半年を祓へ清め、新年を迎える年越大祓式が十二月三十一日十六時より斎行されます。どなたでもご参列いただけますので一年を祓い清め良い年をお迎え下さい。

瘡子社例祭

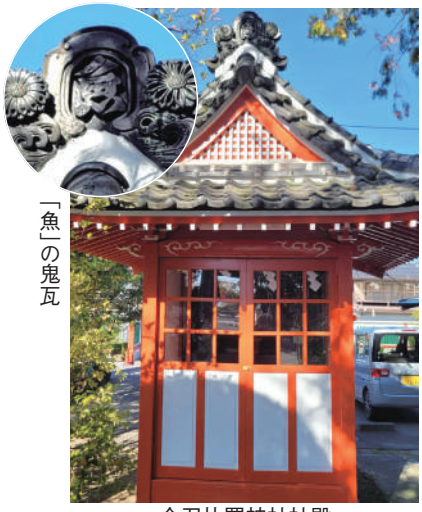
御祭神は少彦名命、大巳貴命で医療・医学の守護神であり、身体健固、病気平癒の御神徳があります。戦前は現在の北側の参拝者駐車場の場所に祀られておりましたが、御鎮座四〇〇年記念事業の折りに現在の場所に遷座され二十五年程の年月が経過いたしました。近年はご神徳の導きを願う参拝者の姿が多く見受けられます。今年も暑い中の七月十五日例大祭が斎行されました。

例祭風景

金刀比羅神社例祭

一昨年改修工事を納めて、初の例大祭を十月九日に斎行致しました。多くの崇敬者にご参列頂き、ご神威高揚に務めました。

御祭神は大物主神で御神徳は豊漁、五穀豊穣、商売繁昌があります。現在の城東通りに魚市場がある時代は魚市場のお店の方々の信仰の厚い社でした。鬼瓦には魚の文字が刻まれています。


「魚」の鬼瓦
金刀比羅神社社殿

抜穂祭（稲刈り）

令和五年五月二十八日に御田植祭を斎行し、境内の風物詩でもある早苗が参拝者に楽しみを与え、猛暑の夏を乗り越えて、十月九日に抜穂祭を執り行いました。命を継ぐ新穀の稔に感謝の祈りを捧げる神事です。

最初の御神田はベニヤで囲みブルーシートを敷いた一坪の神田でした。懐かしく思います。

宮司抜穂（稲刈り）

新嘗祭

十一月二十三日に境内の御神田で実った稲穂を神様にお供えする神事です。

天皇陛下も新穀を神に奉りて御自からも召し上がります。

現在では十一月二十三日は勤労感謝の日として祝日となっていますが、昭和二十二年以前は新嘗祭と言う祭日でありました。現在も名前は変わりましたが祝日として受け継がれています。

御神田で稔った稲穂を神様に献上

安産祈願の由来

安産祈願は神様に参詣し懐妊の報告と無事出産を祈願する行事です。

戌の日が選ばれるのは犬が安産であったため犬にあやかって戌の日に祈願するようになりました。近年はご都合の良い日を吉日と定めお参りなさる方も多くなりました。

安産守

令和6年　戌（いぬ）の日カレンダー

1月	11日（木）赤口	23日（火）赤口	
2月	4日（日）赤口	16日（金）先勝	28日（水）先勝
3月	11日（月）先負	23日（土）先負	
4月	4日（木）先負	16日（火）仏滅	28日（日）仏滅
5月	10日（金）赤口	22日（水）赤口	
6月	3日（月）赤口	15日（土）友引	27日（木）友引
7月	9日（火）先負	21日（日）先負	
8月	2日（金）先負	14日（水）大安	26日（月）大安
9月	7日（土）赤口	19日（木）赤口	
10月	1日（火）赤口	13日（日）先勝	26日（金）先勝
11月	6日（水）先負	18日（月）先負	30日（土）先負
12月	12日（木）仏滅	24日（火）仏滅	

新年祈願ご案内

令和六年甲辰年を迎え、新年祈願祭を斎行しております。家内安全・商売繁昌・厄除・合格祈願等随時行っております。

初穂料　五千円以上

令和6年昇殿参拝で授与される御礼

星除祈願

星除は四緑木星、八白土星、一白水星、三碧木星の方は星除祈願をお受け下さい。

星除守

厄除祈願

運勢学でみる厄年の大厄は衰退期の衰退運に回座する年を言います。男性は昭和五十八年生、女性は平成四年生の方です。男性の昭和三十九年生、平成十二年生は生気興隆の為に生気が増大するので注意の厄。女性の昭和六十三年生・平成十八年生は八方ふさがりの注意の厄です。以上の方は厄除祈願をお受け下さい。

厄除守

令和六年厄年表（数え年）

男の厄年

大厄は四十二歳	前厄	本厄	後厄
	60歳 昭和40年生	61歳 昭和39年生	62歳 昭和38年生
	41歳 昭和59年生	42歳 昭和58年生	43歳 昭和57年生
	24歳 平成13年生	25歳 平成12年生	26歳 平成11年生

女の厄年

大厄は三十三歳	前厄	本厄	後厄
	36歳 昭和64年生 平成元年生	37歳 昭和63年生	38歳 昭和62年生
	32歳 平成5年生	33歳 平成4年生	34歳 平成3年生
	18歳 平成19年生	19歳 平成18年生	20歳 平成17年生

数え年とは、満年令に誕生日前には二歳、誕生日後には一歳を加えた年です。

稲積神社 恵方参りの旅 ～恵方東北東・高麗神社　参拝～

令和6年2月18日（日）～19日（月）予定

◆ご旅行代金　お一人様　30,000円（予定）　◆参加者　80名

行　程

2月18日（日）	集合場所 …… 勝沼IC（中央自動車道・圏央道・関越道）花園IC …… 臨江閣：迎賓館 昼食：ショッピング …… 群馬県庁展望台 …… 伊香保温泉（宿泊） 宿泊先　伊香保温泉　ホテル天坊 電話：0279－72－4489	食事 昼 宴
2月19日（月）	ホテル …… 小江戸川越散策　お菓子横丁・時の鐘 …… 昼食：休憩 …… 高麗神社：正式参拝 ……（中央道）…… 甲府各地	食事 朝 昼

◆参拝旅行企画　稲積神社
甲府市太田町10-2　電話:055-233-5573

◆主催　㈱トラベルネット山梨　電話:055-283-3332
ご旅行ご希望の方は稲積神社までお問合わせ下さい。

崇敬青年会創立40周年記念奉告祭

崇敬青年会会長
五味隆彦

この度、九月二十七日に崇敬会大祭に合わせて、青年会創立四十周年記念奉告祭を執り行わせて頂きました。青年会は、一九八二年、昭和五十七年に発足し今年で四十周年を迎えることができました。これも神社関係者皆様方のご指導ご協力、並びに諸先輩会員の方々のご尽力のお陰だと心から感謝申し上げます。

この度の奉告祭にあたり、私なりに、改めて青年会の歴史を調べてみました。ソフトボール部から始まりスキー教室・バーベキューなどを行い、精力的に活動をなされていたことが伺えました。やはり、活動は互いのことを解り合い思い合って、幼稚な言葉かも知れませんが楽しくあることが大切だと思います。現在十八名の会員ですがその精神を忘れずに神社に奉仕をし青年会として活動をして参りたいと思っております。

現在、四十周年の事業として参道の砂利道の整備を計画しています。（歩行・車の通行があっても砂利が動かない施工）完成しましたら皆様にご報告させていただきます。

終わりに、重ね重ねになりますが、稲積神社崇敬青年会が四十周年を迎えられたことに感謝御礼申し上げると共に、これから四十五年五十年と進んでまいりますが神社関係者・外郭団体の皆様と親睦を図り神社の護持発展に協力し、努めて参りますので、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

記念奉告祭にて五味会長玉串奉奠

祝賀会にて五味会長挨拶

～彬子女王殿下の御台臨を仰ぎ～

全国氏子青年協議会　創立六十周年記念式典

禰宜　根津佳明

令和五年は「繋げよう　氏青の心　粋と絆を次世代に」を主題に、全国氏子青年協議会第六十一回東京大会に合わせ創立六十周年記念式典が、彬子女王殿下御台臨のもと、東京・明治神宮会館で七月八日に開催され、全国より総勢六百名を超える会員が参加した。

当日は定期大会に先立ち、明治神宮にて厳粛な正式参拝が行われ、定期大会では任期満了にともなう役員改選が行われ、徳島県忌部神社氏子青年会の高井勇次氏が新会長に就任され「氏子青年であるからこそなせることをしっかりと見極め実践し、皆様と共に当会を育んでいきたい」と決意を述べられた。

彬子女王殿下のおことばでは、「同会結成の地で「還暦」が祝われることは誠に感慨深い」とのお気持ちをおっしゃられ、「全国の子ども達の憧れのお兄さん・お姉さんとしてこれからも日本の未来のために尽力してください」と呼びかけられた。

祝賀会は「京王プラザホテル」で開催され、岸田文雄総理大臣と小池百合子都知事からビデオメッセージが寄せられた。清興では新橋の芸者衆による踊りや、一般社団法人江戸消防記念会による木遣り・梯子乗りなどの披露が行われ、懇親を深めることができた。

全国氏青協の六十周年を奉祝し、当会も本年四十周年を迎え、さらに繋げていくためには平和で安泰な世の中づくりが必要だと考えさせられました。このように続けてこられたのも、たくさんの先人たちの思いがあるからこそという意識を共通認識とし、未来永劫にわたり会が存続し、関わる皆様が安心して暮らしていけるよう、私も稲積神社大神様にご奉仕して参りますので今後も宜しくお願い致します。

※当会入会をご希望の方は稲積神社へ連絡ください。